

19世紀学学会 研究発表会 & シンポジウム

日時： 2010年7月10日（土）
午後2時～

会場： 新潟大学 人文社会科学系棟
B331教室（B棟3階）

◆発表者：津田 純子（新潟大学教育・学生支援機構教授）
「近代大学制度の成立と変容
ー19世紀末ドイツの大学教育学運動に着目してー」

◆シンポジウム
報告者：松本 彰（新潟大学人文学部教授）
「音楽におけるコメモレーション
ー18, 19, 20, 21世紀の音楽と社会ー」

コメンテーター：
菅原 陽心（新潟大学経済学部教授）
林 豊彦（新潟大学工学部教授）

◆19世紀学学会総会

懇親会：午後6時30分～ 同会場
会費：一般 ¥3,500、学生 ¥2,000



2009年は、ヘンデル没後250年、ハイドン没後200年、メンデルスゾーン生誕200年でした。それらの記念の音楽祭、コメモレーションに接して、18世紀から現代までのヨーロッパの「音楽と社会」について考えさせられました。たとえば、「貴族の時代」だった18世紀に一世を風靡したヘンデルのオペラは、「市民層の時代」となった19世紀には一度も上演されませんでした。20世紀、第一次世界大戦後にヘンデル・オペラの復活運動が起ります。しかし女声が英雄の役を演じ、男声の高音歌手（カウンターテナーとカストラート）が活躍する歌舞伎と宝塚歌劇を一緒にしたような性的に倒錯した世界は全く理解されず、時代に合うように、ということで男声が英雄を演じるように編曲されて上演されました。

20世紀末にオリジナル楽器演奏が盛んになると共に男声高音歌手も復活し、21世紀にヘンデルのオペラは完全復活しつつあります。それらの映像を見ながら、ヘンデルのオペラが上演できなかった19世紀とはどういう時代だったのか、「19世紀の感性と知」について考えたいと思います。（松本 彰）



連絡先：19世紀学学会事務局
Tel & Fax: 025-262-7601
E-Mail: study_19@cc.niigata-u.ac.jp